

# 競技注意事項

## 1 競技規則について

本大会は2021年度（公財）日本陸上競技連盟競技規則及び本大会申し合わせ事項によって実施する。

## 2 練習について

- (1) 補助競技場での練習は、トラック競技と棒高跳以外の跳躍競技に限る。
- (2) 練習会場及び競技場では、逆走、チューブ・牽引ロープ等の器具を使った練習、レーン内にミニハードル・マーク等を置いて行う練習は、危険防止のため禁止とする。
- (2) 投てき練習は危害予防に特に留意すること。投てき場以外での投てき練習は禁止する。
- (3) 投てき競技においては必ず競技役員の指示に従って練習すること。
- (4) 走路の使用は原則として以下の通りとする。状況により変更があるときは係員の指示に従うこと。

◎メイン競技場	◆1～2レーン：中長距離	◆3～7レーン：短距離	◆8～9レーン：ハードル
	※練習可能時間は開門時刻～9：00まで		
◎補助競技場	◆1～2レーン：中長距離	◆9～10レーン（ホームストレートのみ）：100mHと110mH	
	◆3～4レーン：短距離（スタートダッシュはホームストレートスタート地点）※ホームストレートは5～8レーンも使用可		
	◆第1曲走路からバックストレート及び第2曲走路にかけての7～8レーン：300mH		
◎雨天練習場	◆1～2レーン：ハードル	◆3～4レーン：短距離	◆5～6レーン：走幅跳・三段跳
	※走方向については、南(1500mスタート地点)⇒北(200mスタート地点)の一方通行とします。（厳守）		

## 3 招集について

- (1) 招集所は本競技場メインスタンド下の室内練習場に設ける。（100mスタート地点側）
- (2) 招集時刻について
  - ア トラック種目は競技開始20分前に完了する。ただし、1500m以上の長距離種目は現地での招集とする。
  - イ フィールド種目は現地での招集とし、棒高跳は競技開始50分前、それ以外の種目は競技開始30分前とする。
  - ウ 混成競技は最初の種目のみ招集時刻どおりに実施する。2種目目以降は、種目ごとの招集は行なわないので、各種目のスタート位置またはピットに10分前までに集合して競技役員の指示を受ける。
- (3) 招集の方法について
  - ア 競技者は、招集完了時刻までに招集所内の席、或いは、現地で待機し、最終点呼を受ける。その際、アスリートビブス（旧ナンバーカード）・スパイク・シューズ（厚底）・商標等の点検を受ける。（トラック競技のみ腰ナンバーを受け取り、出発までに右腰部やや後方に付ける。）
  - イ カメラ類、ラジオ、トランシーバー、携帯情報端末（デジタルメディアプレーヤーを含む）もしくは類似の機器の持ち込みは禁止とする。（競技規則TR6.3.2）
  - ウ 代理人による点呼は認めない。2種目を同時に兼ねる競技者は「2種目同時出場届」（招集所に準備する）を競技者係に提出し、競技の進行に支障のないようにすること。
  - エ 招集完了時刻に遅れた競技者は、棄権とみなして処理する。
  - オ 棄権する競技者は招集完了時刻までに所定の「欠場届」（招集所に準備する）を競技者係に提出すること。
  - カ アスリートビブスは所定の大きさのまま胸・背部両面に付けること。ただし、跳躍競技は背部または胸部のみでもよい。

## 4 競技の抽選及び番組編成について（レーン順・試技順）

- (1) トラック競技におけるレーン順及びフィールド競技の試技順はプログラム記載順序による。ただし、決勝の組み合わせ、レーン順は主催者が公平に決める。
- (2) トラック競技で次のラウンド進出者を決める際に、同記録があったときは、0.001秒単位で着差判定をして進出者を決める。それでも判定できないときは同成績とし、抽選により進出者を決める。（競技規則TR21.2）  
但し、空きレーンがあるか、走る場所がある（800m競走でレーンに複数割り当てられる場合を含む）のであれば、同成績者は次のラウンドに進むことができる。  
抽選が必要になった場合は、当該競技者にアナウンスで連絡し、大会本部で当該競技者あるいは代理人により抽選を行う。

## 5 競技について

- (1) トラック競技
  - ア スターターの合図は英語（イングリッシュ・コマンド）で行う。
  - イ 不正スタートは1回で失格とする。混成競技においては、各レースでの不正スタートは1回のみとし、その後には

正スタートをした競技者はすべて失格とする。(競技規則 TR16. 8/TR39. 8. 3)

ウ トラック競技は全て写真判定装置を使用する。

エ 予選出場者が9人以下となった場合は、決勝時刻に決勝を行う(予選の招集完了時刻に決定)

オ レーンの競走においてはフィニッシュライン通過後も自己レーン(曲線)に従って走ること。

カ 5000m以上の長距離種目については、気象状況によっては給水を実施する。

## (2) フィールド競技

ア 競技場内での練習は、全て競技役員の指示に従って行うこと。

イ 投てき競技の計測は光波測定器を使用する。

ウ 投てき競技の出場者は、滑り止め剤を自身で用意すること。(主催者は用意しない)

エ 跳躍・やり投の競技者は、助走路の外側(走高跳は助走路内)に主催者が用意したマーカーを2個まで置くことができる。サークルで行う投てき競技は、マーカーを1つだけ使用することができる。

オ 携帯電話等、競技規則 TR6. 3. 2 に関わる機器は競技場内に持ち込むことができない。

カ 三段跳の踏切板は、砂場から男子は11m、女子は8mの位置に設置する。

キ 走高跳バーの上げ方は最後の一人になり、優勝が決まるまでは下表の通りとする。ただし気象状況等により変更する場合がある。

種別・種目	練習	1	2	3	4	5	6	以後1人になるまで
男子走高跳	1.65	1.70	1.75	1.80	1.85	1.90	1.95	3cm
女子走高跳	1.40	1.45	1.50	1.55	1.60	1.65	1.70	3cm

ク 「棒高跳」の練習及び開始の高さは当日決定する。

ケ ジャンプオフ(第1位決定戦)のバーの上げ下げの幅は走高跳2cm、棒高跳5cmとする。

## 6 競技用具について

(1) 投てき用具は競技場に備え付けのものを使用する。ただし、棒高跳用ポールに限り、個人所有のものを使用することができる。

(2) スパイクシューズのピンは7mm以下とする。走高跳及びやり投は9mm以下とする。

(3) 競技で使用するシューズの底の厚さは、以下の範囲とする。

種目	シューズ底の厚さ
800m未満の競技(ハードル含む)	20mm以内
800m以上の競技	25mm以内
三段跳	25mm以内(前部が踵より厚くならない)
跳躍競技(三段跳を除く)、投てき競技	20mm以内(前部が踵より厚くならない)
ロード・競歩	40mm以内

※ なお、中学生及び高校生のフィールド種目の競技用シューズについては、上記規定の除外対象として検査を行わず、従来から使用するシューズを使用できるものとする。

但し、本競技会において、全日本中学校陸上競技選手権大会の参加標準記録突破を目指す中学生は、全日本中学校体育連盟の指示通り上記規定を遵守することとし、検査を受けるものとする。

## 7 その他

(1) 本大会は無観客による大会とし、出場するチーム関係者は当協会策定の「2021年度版大会開催ガイドラインSTEP4」に従って感染予防に努めること。

※当協会ホームページから閲覧可能：<http://www.hal.ne.jp/trk/>

(2) 新型コロナ感染予防により如何なる場所においても、発声による応援は全て禁止する。また、拍手などによる応援についても競技の進行にも配慮しながら応援すること。

(3) 発病(新型コロナウイルス感染症も含む)・負傷に対しては応急処置を行うが、以後の責任は一切負わない。

(4) 本大会終了後に新型コロナウイルス感染症の診断を受けた場合は、速やかに当協会に報告すること。

(5) 貴重品の管理は各人で行うこと。紛失の責任は負わない。

(6) 記録の証明を希望する競技者は、庶務係の受付に用意した記録証明書交付願に500円を添えて申し込むこと。

(7) 当日の記録発表は、新型コロナ感染予防により当協会HPに掲載する。但し、次ラウンドの番組編成は競技場外の掲示板に掲示する。